

む つ み

2 7 7

日本国語教師の会「樺の会」

第五十二回日本国語教師の会「樺の会」茨城取手大会案内号

例年、全国行脚をしていた夏季合宿研究会（通称：全国大会）ですが、九年前から新たな実施の形として、東京近郊において、一泊二日で行うことになっています。今年は第十二回水郷筑波大会以来、実に四十年ぶり二回目の茨城県での開催となります。

関東圏以外の先生方と互いに磨き合える数少ない機会ですので、どうぞ奮ってご参加をお願いいたします。

第五十二回 日本国語教師の会「樺の会」茨城取手大会

一 主題 ことばを育て人間を育てる国語教育

―自ら学び、ともに学び合う国語の教学―

主催 日本国語教師の会「樺の会」

後援 取手市教育委員会

二 とき 平成二十八年八月六日（土）～七日（日）

三 ところ 江戸川学園取手小学校

〒 302-0033 茨城県取手市野々井一五六七―二

TEL: 0297-71-3354(代表) / FAX 0297-71-3354

交通：JTB常磐線「取手」駅西口下車 タクシー10分

【宿泊】セントラルホテル取手 TEL: 0297-72-1123

四 日程

【第一日】八月六日（土） 江戸川学園取手小学校にて

1 受付 八：三〇～九：一五

2 開会式 九：一五～九：三〇

① 開会のことば

② 挨拶 大会委員長 若林 富男 (茨城)

③ 大会運営の連絡 大会事務局長 内丸 友之 (茨城)

3 はじめの話 九：三〇～一〇：〇〇

大会委員長 若林 富男 (茨城)

4 研究発表 一〇：一五～一二：〇〇

発表者 岡田 博元(東京) 齋藤 寛(茨城) ほか

5 先達に学ぶ

先達の話 山崎 和男(東京) ほか

6 パネルディスカッション 一四：三〇～一六：三〇

「問題作り学習とアクティブラーニング」

コーディネーター 成田 信子(神奈川)
パネリスト 片山 守道(東京) 小山久仁子(埼玉) ほか

7 懇親会 一八：〇〇～二〇：〇〇

取手駅東口『野の花』(予定)にて

司会 内丸 友之(茨城) 村上 博之(神奈川)
横内 智子(東京)

【第二日】 八月七日(日) 江戸川学園取手小学校にて

1 受付 八：三〇～九：〇〇

2 実践報告分科会 九：〇〇～一二：〇〇

◆低学年分科会

発表者 田中 久枝(茨城) 仲田美貴子(茨城)

◆中学年分科会

発表者 内丸 友之(茨城) 前原 文江(東京)

◆高学年分科会

発表者 幅野今日子(茨城) 廣瀬 修也(東京)

3 ゲストの話(記念講演) 一三：〇〇～一四：三〇

講師 塚田 泰彦(筑波大学大学院教授)

4 まとめの話(総括講演) 一五：一五～一五：四五

秋山 誠(千葉)

5 閉会式 一五：四五

・会代表の挨拶

・参加者代表の挨拶

・本部事務局からの連絡

・閉会のことば

司会 平野 登志江(千葉)

松本 正子(埼玉)

山口 文子(茨城)

黒田英津子(静岡)

若林 富男(茨城)

五 参加費等 大会参加費は四〇〇〇円(資料代・会場費等)です。

地元(茨城県内に勤務校) 参加費は三〇〇〇円です。

学生参加費は二〇〇〇円です。当日受付で集めます。

宿泊費は一泊シングル六七〇〇円、ダブルクッキング

ル七九〇〇円、ツイン(二人で)一二九〇〇円(朝食

付税込)です。懇親会費は五〇〇〇円(税込)です。

六 申込方法 八月三日（水）までに、申込用紙に必要事項を記入

してお申し込みください。

前述の宿泊を希望なさる方は、七月二十六日（金）までにお申し込みください。

七 申込先 〒 170-0002 東京都豊島区巢鴨 一 一六二一〇一〇

松木 正子

TEL&FAX 〇三―三九四五―五二二五

【メール】 smatsuki@junonji-u.ac.jp

【ホームページ】 <http://www.geocities.jp/kyakinhokai/top/>

八 研究発表等 研究発表（八月七日午前若干名）分科会実践報告

（八月八日午前、上・下学年各若干名）をご希望の方

方は七月一日（金）までに、テーマや内容を明記してお申し出ください。原則として受付順に決定します。大会事務局より依頼することもあります。

発表要項はA4用紙を横長、縦書きにして四枚以

内にまとめ、七月十六日（金）までに、申込先にお送りください。期日に遅れた方は、当日八十部ご持参ください。

九 その他 ①当日受付もしますが、参加者数により資料をお渡し

できないことがあります。

②会場で本会員有志執筆の図書を特別割引価格でお頒ちいたします。

【大会役員】

大会委員長 若林 富男（江戸川学園取手小学校）

大会事務局長 内丸 友之（江戸川学園取手小学校）

大会事務局 秋山 誠（前千葉県浦安市立美浜南小学校）

岡田 博元（お茶の水女子大学附属小学校）

片山 守道（お茶の水女子大学附属小学校）

名取 俊夫（埼玉県朝霞市立朝霞第七小学校）

田中 久枝（江戸川学園取手小学校）

松木 正子（前十文字学園女子大学）

安田 恭子（前東京都新宿区立西戸山小学校）

横内 智子（お茶の水女子大学附属小学校）

◆樺の会四五〇回記念特別企画の「授業研究会」

ことばを育て人間を育てる国語教育

―今、求められる「国語科問題作り学習」―

日時 平成二八年五月一四日（土）

授業者 片山守道先生 お茶の水女子大学附属小学校

児童 第六学年三組二五名

【研究協議会記録】

一・授業者反省（片山先生）

今日のように、一人ひとりが問いを作り、ファミリーで話し合っ
て選ぶ授業は、これまでに何回かやっている。「童」のときは、久
しぶりに行ったということもあり、問いが具体的にならなかった。

先行クラスでは、ファミリーの話し合いが二〇分だったが、今日は、積極的に話し合いをして三〇分かった。

今日は、ファミリーで問いを二つに絞ったので、どの問いもそれなりに良かったと思う。「あいまいな口笛」は、ファミリーが困っていたので、取り上げたいと思う。先行クラスでは、「なぜサボテンから水が出るのか」といった基本的な問いも出ていた。

これからどのように進めたら良いか先生方のご意見をいただきたい。

二. 研究協議 (○: 質問、意見 ◎: 答え)

○ グループの話し合いをどのようにしたらよいか教えて欲しい。長い作品を扱うときは、問題の数が増えるので、どのように扱ったら良いか。(村上)

○ 今日までに、どのくらいの時間をかけているのか。一人ひとりの自学がよく出来ていて驚いた。(小山)

◎ 問題作りの絞り込みは、この学年の児童は、今までに経験があるので選んだが、初めてやる場合は、色々な問題をそのまま出して全体で話し合うことで、どんな問題が良いか話し合いながら学ぶのが良い。

村上先生の質問は、単元全体を問題作りにするのではなく、場面を決めて問題作りをするのも良い。この話は、昨日始めて読んだ。家で問題を考えてきた子もいる。(片山)

○ 話し合いのやり方が、ファミリーで違っていた。全体でいくつ

あるか確認してから始めるファミリーと1の場面から順番に話し合うファミリーがあった。(村上)

◎ 場面ごとに話し合うよう話した。(片山)

○ 読めるようにすること、自問自答する時間が必要だ。(小山)

◎ 今回は、書き込みのワークシートを作った。記号や線の種類は個人で工夫して書いた。(片山)

○ いつ頃から、問いをえらんで、学習しているのか。(岡田)

◎ 五年生になってから、よくやるようになった。(片山)
(司会) グループを作って、今日の課題について話し合う。

○ 問題の絞り込みに教師が配慮したことは何か。

◎ 1段落の「意志のように」と3段落の「たたかいたながら生きた」と最後の段落を取り上げたいと考えていた。

少数意見でも取り上げる場合もあるし、多数であっても別のものと換える場合もある。(片山)

○ 落としはいけない言葉で、立ち止まらせることが必要ではないか。(村上)

◎ 精選しすぎると抜け落ちる場合があるが、良い作品は、大事な言葉がたくさんあるので、エッセンスとなるところを、子どもの言葉から取り上げていくようにしている。(片山)

○ 問題を話し合いながら前の言葉に立ち返ることも大事。(岡田)

○ 私は、作者から、アンパンマンを想像しました。作者と作品の関係も話し合いたい。(安部)

○ 精選することで、課題解決学習と似てくる気がするが、この後

どう進めるのか。(村上)

○ 今日の授業は、学習の流れが自然だった。やなせたかしの思想を考えさせたい。最後の一文を取り上げるだけでも、深い意味が読み取れると思う。(山崎)

○ 最後の一文は、やなせたかしの思想に迫る言葉である。叙述に気づいている子の言葉をどう全体にひろげるかが大切。(成田)

◎ 教材文が短いため、時数は4時間程度でコンパクトに進めたい。子ども達が前に出て、進める場合もある。

アンパンマンのことを初発の感想に書いている子もいた。私も自分の体を傷つけて人を助けるのが、アンパンマンとそっくりだと感じている。(片山)

○ 一人の子の意見で話し合いが深まったか、それともどうだったか。(岡田)

◎ 「竜」では、主題や心情を捉えればよいと考えている子がいた。なので、全体を捉える問題は出にくい。五年の最後に作者の意図について考えたので、子ども達の記憶に残っていたと思う。(片山)

三. まとめの話 松木先生

ゆとり世代が話題になる一方、アクティブラーニングが謳われ、実践が模索されている。主体的な学習、自ら課題を持って取り組む学習、それは、石田佐久馬先生が問題作り学習でずっと言っていたことである。

この教材は四時間の短い教材で、新しい気持ちで、まず、口を開いて教材と向き合うためのものだ。片山先生は、子ども達に丁寧に指示を出して、子ども達もすぐに活動していた。片山先生は、前時に作った問題をきちんと押さえて、今日の授業に臨んでいた。やはり、「サボテンの花」の題名は、きちんと押さえておきたい。それから、サボテンに対する作者の想いを「意志」という表現から、叙述に即して自分のサボテン観を作っていきたい。

二つ目は、どう読み取るか押さえることであり、そういった問題が子ども達の中から出てきているか調べておく。

三つ目は、朗読に繋がる言葉に気づかせたい。

問題作り学習は、良い問題でなくても素朴な問題を取り上げることも大切である。読み間違えから気づくことも大切である。この教材文を読み味わって主題に到達したい。一見つまらなそうな問題でも話し合うことで、どんな問題が「深い問題」が見つかることが出来る。学び方に気づく、どう学べばいいのか分かるのが問題作りである。自分では、答えが出ないからみんなで考えたという視点を大切にしたい。

「おどろくほど美しい花」については、全体を読み取ってから最後に話し合うと良い。

四時間で終わらせる工夫もある。辞書は出来るだけ使わせたい。グループの中で、話し合って解決できなかった問題、グループの中で良い意見が出た問題を全体で話し合うと良い。

【記録：田中 久枝（茨城・江戸川学園取手小学校）】

◇◇会案内◇◇

日本国語教師の会「樺の会」の研究でめざすもの

日本国語教師の会「樺の会」は、二十一世紀の国語学習の在り方の探求する研究集団である。

子どもたちが「自ら国語の力を獲得する学び」の姿を求めて、東京千葉、埼玉、神奈川、茨城から会員が都内の会場校に集まって来る。若手から中堅、そしてベテランまで、幅広い層の教員が、常に三十名近く参加する。

『研究は厳しく、人間関係は和やかに』を合言葉に毎月一度集まり、互いに学び合っている。二〇一三年六月には月例会が四一六回となり、まもなく四五〇回を迎えることになる日本国語教師の会「樺の会」は、故石田佐久馬代表の遺志を引き継ぎ「吾以外皆我師」をモットーに学び続けている。月例会で学んだことをもとに、日本国語教師の会「樺の会」の全国大会(毎年七〜八月)で、発表する会員も多い。

近年三年間の日本国語教師の会「樺の会」の全国大会の研究テーマを掲げると、次のようになる。

二〇一三年 第四十九回 浦安大会 (千葉県浦安市)

ことばを育て人間を育てる

ことばの楽しさを体験する授業の創造

二〇一四年 第五十回 埼玉武蔵野大会 (埼玉県新座市)

ことばを育て人間を育てる 国語教育温故知新

二〇一五年 第五十一回 多摩東京大会 (東京都立川市)

ことばを育て人間を育てる どの子も輝く国語の教室

日本国語教師の会「樺の会」の会員は、全国大会のテーマを常に意識しながら、自分で興味関心のあるテーマを設定し、授業実践を通して追求し、年一回月例会で提案することを申し合わせている。

【茨城取手大会会場校の国語教育】

◇江戸川学園取手小学校の国語教育の特色(一部抜粋)

江戸川学園取手小学校では、全ての教科の基礎であり、思考力や表現力の源となる『読書指導』に力を入れています。独自の「朝の読書タイム」を設けるとともに、国語の時間割の中に「読書指導」の時間を設けています。

年間読書100冊・10000ページ読破が目標

毎日、朝の読書タイムや読書の時間、国語の時間、さらにはアフタースクールの中で読書活動を推進して、目標として毎月10冊以上、年間100冊の本を読み込みます。中学年からは年間10000ページ読破を新たな目標とします。一人で考える読書、友達と交流して深める読書、時にはみんなで楽しむ読書を展開していきます。読書記録(読書貯金)を書くことによって、思いや考えを確かなものにし、心に刻み込みます。そして、自分の読書活動を振り返るときに役立ちます。すぐれた本は、繰り返し読んで、その都度新しいことを発見するものです。えどとり小の子どもたちは、いつも読みかけの本を、手元にそしてカバンの中に持っています。

【文責：若林 寛男】